

平成27年1月27日

日立理科クラブ通信

No. 29



日立理科クラブ

授業支援・中小路小学校 6年理科「てこのはたらき」

1月23日(木)、中小路小学校で実施した授業支援を紹介いたします。今回の授業支援は2時間の授業で、6年生の「てこのはたらき」を行いました。

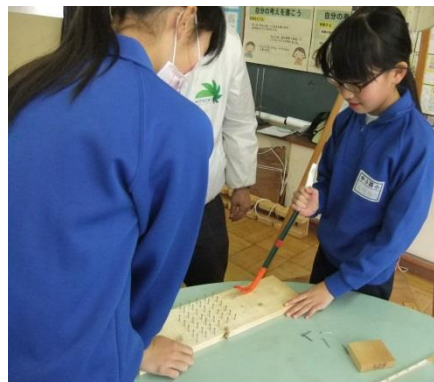
1時間目は、①スライドによる説明、②いろいろなてこ(日用品)についてを学習しました。「てこのはたらき」が活用されているという例として、児童たちには思いつかない耳の働きを出しましたが、その仕組みが理解できず、不思議な表情で説明を受けていました。発達段階で理解できない内容でも、中学や高校で耳の働きを学ぶときに、本日の勉強が脳裏にあって、「なるほど」と理解が進むことを期待したいですね。



2時間目は、てこのはたらきの体験学習で、① さおばかり ② くぎ抜き体験 ③ 輪軸 を児童たち一人一人が実際に行いました。日立理科クラブの支援講師4名と中小路小担当の理科室のおじさん1名のチームワークで、分担



内容の説明や子どもたちとのやりとりを重視するなど、和気あいあいとした掛け合いの中で、授業を楽しんで積極的に行っている様子がとても見られました。支援講師の人たちが、うまく子どもたちの意見を誘導したり、発表した子どもたちの意見を尊重して、賞賛の



声を掛けたりしていました。

中小路小の理科室には、理科のねらいとして「よく見て よく考

える」と書かれています。実際の体験の中で、その現象を注意深く観察し、なぜだろうという考えを巡らして考察する姿勢がとても良く表れていました。そのように導いていった支援講師の働きもすばらしいと思いますが…。とても和やかな雰囲気になったのは、輪軸の学習で、チェーン滑車を使った実験です。1/30の力で物体を持ち上げることができるチェーン滑車を用意しました。クラスの中で一番体重のありそうな男子児童が台に乗り、力の弱い女子児童が持ち上げるという場面を作り、女子児童の力で、男子が軽々と持ち上がっていく様子に、教室内のみんながとてもこやかな笑顔を作っていました。「担任の先生も持ち上げてみようか。」という、支援講師のかけ声に、たくさんの児童が手を挙げていました。にこやかな児童たちの表情から、担任教師と児童の信頼関係が構築されていることを感じました。



チェーン滑車で楽々持ち上がる

授業支援は、授業の指導内容だけでなく日立理科クラブの人たちとのふれあいの中で、学ぶことの意義を掴むことであったり、学習の仕方や学び方を知ることであったりと、とても大切な要素が含まれています。

文責 日立理科クラブ 特別会員 岩波 英一
日立理科クラブ事務所 TEL/FAX 0294-24-3104